

###free1###

###name### 様

◆コロナショックが健康と経済活動の「安心・安全」の大いなるリスクとなっております。皆様はいかがですか？ 免疫力を高めて、タフに生き抜きましょう！

~~~~~

後継者・後継社長の悩みを解決する

社長の人生と理念経営の実戦＝組織の活性化と後継者育成の成功のポイント

=====

「はやぶさ」339号 2020年04月24日(金)

### 【第3回】 「経営理念の根幹は社長の人生哲学」

著者：自分と周囲を幸せにする・研究所

スーパーサポーター 辻 騎志

・3代目として企業のどん底を経験。その体験がにじみ出る、「できない」を「できる」にする現状打破研修等。PHP 研修所登録講師。

著書に松下幸之助の商人道を、マンガと小説にした「ショーバイ・クエスト」が在る。

~~~~~

◆目次にかえて・・・5回シリーズでお届けいたします

＊＊「理念経営」と「経営理念」は、その位置づけが違います。

理念経営が上位概念です。

① #337・・・200327・・・バックナンバー

http://rinenkeieishi.net/archives/data/mls722lpdf_1_393.pdf

「社長が最高に幸せで自分らしく輝いて生きるには・・・」

② #338・・・200410・・・バックナンバー

http://rinenkeieishi.net/archives/data/mls722lpdf_1_394.pdf

「社長の人生の目的と経営理念」

③ #339・・・200424・・・今回の記事

「経営理念の根幹は社長の人生哲学」

④ #340・・・200508

「自分を幸せにする“力”」

⑤ #341・・・200522

「経営理念を浸透させるために」

＊＊予告ですので変更することがありますので、悪しからずよろしくお願ひします。

~~~~~本文~~~~~

### 【第3回】 経営理念の根幹は社長の人生哲学

多くの経営者が自身を深めるために学んでいるものに「東洋哲学」がある。これは「人間学」と表現される場合も多い。

具体的には、安岡正篤、中村天風、佐藤一斎、二宮尊徳、福沢諭吉、西郷隆盛、城野 宏、丸山敏雄、山田無文や松原泰道など仏教関連の方々と言った人たちの著作であろう。

#### ①ポイントは「生き方＝人生のプロセス」は「決断と選択」の連続

前回は「人生の目的」について書いたが、もう一つ大事なことは「人生のプロセスをどのように生きるか」すなわち「生き方」である。

元々、社長（トップ）の最大の役割は「決断すること」である。直面する様々な困難をどう解決するのか、新規事業のための投資をするのかしないのか、社員のモチベーションをどう上げて行くのか、社員が色々な意見を言ったとしても、それを踏まえて最後に決断するのは社長である。決断した人が全ての責任を持つのは当たり前だから、社長が最終責任者なのである。それだけに「決断」は重要であり、ここに社長が哲学（人間学）を学ぶ理由がある。つまり、決断の根拠や決断のモノサシになるもの、それが哲学だからである。

#### ②商人道は「働き方」

一方、商人道と呼ばれているものがある。近江商人の「三方よし」（売り手よし、買い手よし、世間よし）が有名だが、この商人道と哲学の関係を考えてみたい。

商人道とは「働き方」であり、哲学は「生き方」である。そもそも人生（生き方）全体の中に、仕事や学び、遊びなどが入っているわけだから、働き方は生き方の中に含まれる。従って、どんな生き方をしているかが働き方に反映されるし、「どんな働き方をしているか」は、そのまま「どんな生き方をしているか」ということと同義である。ちなみに生き方（人の道）から外れた働き方をするとコンプライアンス違反ということになるわけだ。

ちなみに、そんなことを踏まえて、松下幸之助の商人道をマンガと小説で著した本が「ショーバイ・クエスト」である。この中には「働き方は生き方である」という言葉が何度も出てくる。よく「商品売る前に自分を売れ」と言われるが、まずは自分が信頼されることが大事であり、自分の信頼が深まるような働き方をしなければならない。「お客様のお役に立つことが商売であり、お客様は自分が儲けるための道具ではない」「お客様が欲しがるもの売るのではなく、お客様のお役に立つもの売らなければならない」「お客様のお役に立つ喜びを自分の喜びとする」「利益はお客様のお役に立った結果としての報酬である」と言った普段は大人向けに研修で話していることを、小学生にもわかりやすくということで、当時小学校4年生だった娘にいちいち「ここわかるか？」と聞きながら書いたので少なくとも小学校4年生以上なら理解できると思

います。

### ③「理念経営」の上位概念は「理念経営＝存在理念」です

さて、経営理念は、「そもそも何のためにこの会社は存在するのか」＝存在理念ということを示すもので、それを噛み砕いて具体的にブレイクダウンしていったものが基本方針とか行動指針とといったものになるのだと思う。

それらは、社長の人生哲学に基づいた商人道を踏まえた上に構築されるものであり、そうでなければならぬ。経営においては、刻一刻と変化する状況の中で、即断即決しなければならないことも多い。決断の基準は経営理念（基本方針なども含めて）に沿っているかどうかで判断される。よく、会社は社長の器以上にはならないと言われるが、量的にも質的にもその通りと言わざるを得ない。社長は自身の人生哲学をより一層深め、そこから会社の法律とも言える経営理念を構築してほしいと思う。

④「理念経営」は、単に経済活動の調和に止まるのではなく、次世代＝未来にどんな環境を伝えていくのか「地球環境」に悪い影響を与えないか？ を意思決定の因子として織り込んで、経済活動と社会活動・環境活動をすることを志向しています。

次回は#340号 200508「自分を幸せにする“力”」をお送りいたします。

最後までお読みいただいて感謝いたします。本当にありがとうございます。

では、また次号でお会いしましょう！

\*\*\*\*\*第6回ビジネスモデル発表交流大会のご報告\*\*\*\*\*

バックナンバーは

、[https://rinenkeieishi.net/archives/data/mls722/pdf\\_1\\_382.pdf](https://rinenkeieishi.net/archives/data/mls722/pdf_1_382.pdf) を  
ご覧ください

\*\* お問い合わせ・質問は                      メールアドレス： [hos\\_biz@hosbiz.net](mailto:hos_biz@hosbiz.net)

発行責任者：平本 靖夫、              編集長：石川 昌平

配信解除URL：配信停止をご希望の際は、以下のアドレスをクリックしてください。

[http://1lejend.com/stepmail/dela.php?no=xxewhs&a\\_mail=###mail###](http://1lejend.com/stepmail/dela.php?no=xxewhs&a_mail=###mail###)